

令和4年度 府立丹後緑風高等学校久美浜学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 中間評価

令和4年10月24日

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>「夢と人・学舎・地域・世界を結び、ものごとの本質を究め、新たな価値を創り出す」人材を育成する。</p> <p>&lt;教育目標&gt;</p> <p>1 丹後地域の自然・歴史財産を活用した新しい時代に求められる探究心の育成</p> <p>2 丹後とグローバル社会を結ぶ若者力の育成</p> <p>3 丹後地域での新しい農業と食を創造できる人材の育成</p> <p>4 福祉マインドの育成</p> <p>&lt;育てる生徒像&gt;</p> <p>■ 豊かな人間性と社会人基礎力を身に付け、自ら学ぶ生徒</p> <p>■ 丹後を愛し、丹後地域の発展に貢献しようとする生徒</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 「課題研究」及び「総合的な探究の時間」において、地域と連携した取組を進め、成果発表会を実施するなど、「はぐくみたい3つの力」の育成に繋がる一定の成果をあげた。</p> <p>(2) 授業規律の徹底を進め、比較的落ち着いた雰囲気の中でICT機器を活用した授業（遠隔授業を含む）改善を進め、特に低学力生徒の学力向上に繋げることができた。</p> <p>(3) アグリサイエンス科において、複数生徒が外部大会で優秀な成績を収めたり、多数の生徒が資格を取得したりするなど、生徒の知識や意欲を高めている。</p> <p>(4) 毎朝の立ち番やアンケート調査等できめ細かく生徒を見守る取組が、生徒の学校生活における安心感や重大いじめ事案の防止に繋がった。</p> <p>(5) 部活動が少人数となる中でも丁寧な指導を進めたことが、高い継続率や、各種大会での好成績、自己肯定感の向上に繋がった。</p> <p>(6) 学校HPの刷新、学校だより、アグリサイエンス科通信等により計画的に広報活動を進めた。また、PTAだよりは府高P連より好評を得た。</p> <p>(7) 保健部の指揮により新型コロナウイルス感染症感染防止対策、教育相談や特別支援の取組を組織的に進めた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 各講座内の比較的学力の高い生徒に対する指導を改善し、学力を向上させる必要がある。</p> <p>(2) 3年次に至るまでに進路意識をいかに高め、準備を進めさせるかを考える必要がある。</p> <p>(3) 網野学舎との農商連携を具体的に進める必要がある。</p> <p>(4) 広報活動以外の生徒募集に繋がる取組について考え、進めていく必要がある。</p>	<p>左記の〈育てる生徒像〉の実現に向けて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>1 本学舎版「はぐくみたい3つの力（①基礎的な知識・技能 ②論理的に考え、伝える力 ③主体的に学びに向かう姿勢）」の育成</p> </div> <p>(1) 地域創生・地域貢献を軸とした「総合的な探究の時間」及び「課題研究」を充実させる。</p> <p>(2) 観点別評価を軸に、ICT機器利活用・探究的指導により授業改善を進める。</p> <p>(3) 生徒個々の課題に応じた学習指導を充実させる。</p> <p>(4) 進路意識を高まりや主体的な進路の取組に繋がるキャリア教育を計画的に実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2 自己有用感の醸成</p> </div> <p>(1) 規範意識の醸成と健全な生活態度の育成を図る。</p> <p>(2) 生徒会行事や部活動、ボランティア活動、地域貢献の取組等への積極的な参加を促し、充実感や向上心に繋がる指導を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>3 学舎間連携の推進</p> </div> <p>(1) 効果的な遠隔授業の実施・研究を進める。</p> <p>(2) 学舎間の連携により教育活動を充実する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>4 広報活動の充実</p> </div> <p>(1) 生徒募集に向けた取組を全校体制で進める。</p> <p>(2) 保護者へ丁寧かつタイムリーに情報を提供する。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	広報活動の充実	・地域や中学生とその保護者に対して、適切な時期に特色ある取組を発信し、効果的な広報活動を継続して行い、生徒募集につなげる。【学校だより：月1回の発行、HP：日々更新】	A	B	学舎だよりやInstagramの活用により、効果的な情報発信ができています。HPの更新を全教職員が取り組むことで、広報活動への意識が高まっている。
	安心・安全・快適な教育環境の整備	・日常的な安全点検により、危険箇所を早期に修繕する。 ・校内の整理整頓により、快適な教育環境の整備を図る。 ・光熱水費の節減により、学校運営費の中で効果的に活用できる予算枠を確保する。 【学校評価アンケートでの教育環境満足度：70%以上】	A		教育環境の整備や修繕は適宜対応できている。使用教室の集中化や職員室の移動により空いた教室等の活用を考える必要がある。
	教職員の働き方改革の推進	・会議の内容を精選する。 ・分掌ごとに業務の見直し、スクラップに取り組む。 ・分掌ごとに毎月1回「はよ帰ろうデー」を実施する。 【分掌での業務見直しの実施・はよ帰ろうデーの実施】	C		新たな取組が増える一方で業務の見直し・スクラップに取り組めていないことが課題である。
家庭・地域との連携	保護者への情報発信の充実によるPTA活動への積極的な参加促進	・HPと「マチコミ」を有効に活用して保護者の教育活動への理解を進める。【学校評価アンケート：「学校の様子が分かる」の肯定的評価80%以上】	A	A	HPの更新は週2回以上を継続し、「マチコミ」の登録状況は年度当初より徐々に上がり、現在は70%程度である。
	地域連携による教育活動の充実	・様々な教育活動（実習、探究活動、課題研究、部活動、ボランティア活動等）において、地域連携による活動を進める。 【年間の取組：30回以上実施・生徒全員が1度以上参加】	A		平田オリザ氏による演劇W.S.を実施。探究活動中間発表会では福知山公立大や「roots」や「丹後experience」から講師を招くなど地域連携を進めている。
	学舎間の連携による教育活動の充実	・農商連携をはじめ、教科、分掌での連携した取組を進める。 ・実践例を全体で共有する場を設定する。 【教科・分掌で情報共有や連携の取組等を1回以上実施】	A		商品開発において農商連携を行い、緑風マーケットでの販売、ICT×地方創生甲子園での発表を実施する。
学習指導	授業規律の確立 「時を守り、場を清め、礼を正す」	・授業規律と教室の整理整頓の指導を行う。 ・ベル着の指導を徹底し、授業時間の有効活用に努める。 【「授業規律カード」による指導回数生徒：0人】	B	B	落ち着いた状況だが、課題を抱える生徒の対応に課題。教員間の連絡を密にし、観点別評価と繋げる等、授業改善の必要性を職員研修等で共有している。
	「はぐくみたい3つの力」の向上	・ICT機器、学校図書館、新聞等の活用、探究的手法の導入等による授業改善を図る。 【公開・研究授業の参観：教員一人年間2時間以上】 【「はぐくみたい3つの力」向上に関するアンケート：肯定的回答80%以上】	B		年2回実施の研究公開授業週間に加え市内中学校教員対象の授業公開（2回）や、保護者向けの授業公開を実施し授業研究を進めている。1年次生に導入したタブレットは2学期以降積極的に授業で活用している教科もあるが、有効活用に向けた授業改善が各教科で望まれる。1学期末の授業アンケート「力の伸びの実感」は、3.57（満点4.0）となった。引き続き、進路目標実現につながる力をつけるために進路指導部とも連携し模擬試験等の現状を把握し、日々の授業や補習
		・生徒個々の学力に応じた指導を行うとともに、検定試験等を活用する等の学習意欲を高める方策を実行する。 【各学力層におけるGTZの伸長】【授業アンケートでの「力の伸びの実感」回答平均3.5以上（4段階評価）】	B		B

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に課題を持つ生徒、前年度不認定科目を持つ生徒へ計画的にていねいな指導を行う。 【学年末で不認定科目を抱える生徒の割合10%以下】 【不認定科目の追認審査で年度内合格：100%】</li> </ul>	B		<p>につなげていく必要がある。</p> <p>1学期末の成績不振科目を持つ生徒の割合は12.6%、第1回追認審査での合格率は40%であった。小規模校の利点を活かし、それぞれの教員が生徒ときめ細かに向きあい生徒の成長に繋がっている。</p>
各学科の特色に応じた学習活動の充実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な専門知識や技術の習得を図る。</li> <li>・社会人講師より専門知識や幅広い考え方を学ぶ。 【関連資格取得生徒数：のべ40名以上】 【各学科各コース：年間1回以上】</li> </ul>	A	A	<p>「三菱みらい財団」や「農と里を支える担い手育成事業」「京の担い手育成推進事業」「特色化推進事業」等を中心とした社会人講師の活用により、学習効果が高まっている。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校農業クラブ活動を活性化し、各種競技会・講習会に積極的に参加する。【各種競技会入賞：3名以上】</li> </ul>	A		<p>意見発表会1部門優秀賞、和牛審査競技会1名優秀賞を受賞し、日本学校農業クラブ全国大会（北陸大会）の農業鑑定競技会分野「農業」「食品」にそれぞれ1名の学校代表が出場予定。</p>
生徒指導	安心・安全な学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の困りを早期に発見・共有し、組織的に対応する。 【学校評価アンケート：「学校生活への安心度」80%以上】</li> </ul>	A	A	<p>毎週のアンケート調査並びに京都府教育委員会いじめ調査において重大ないじめ事象に該当する回答はない。小規模校のメリットを活かした丁寧な生徒観察が要因の一つである。毎朝多くの教員が至る所で生徒を温かく迎えていることも問題行動減少に繋がっていると考える。</p> <p>身だしなみは、昨年度からは改善されている面もあるが、社会人として求められるレベルには達していない生徒も多いので、さらなる向上が必要である。</p> <p>ボランティア活動への参加件数が増えてきており、参加者の満足度も非常に高い。今後も継続して参加を促したい。</p>
	生徒の自己肯定感・自己有用感の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRや学校行事等を生徒が価値観を尊重しあう関係を育成する機会と捉え、生徒に寄り添いながら指導を行う。</li> <li>・学期毎にGood Card週間を行い、生徒の良い行動を認める。</li> <li>・ボランティア活動を推奨する。 【行事の満足度（自己の役割の理解）：肯定回答70%以上】 【「参加ボランティア活動の満足度」：50%以上】</li> </ul>	A		
進路指導	希望進路の実現に向けた生徒一人一人の主体的取組の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見据えた進路実現プラン「未来への架け橋」を計画的に実行する。</li> <li>・学期毎に進路HRを実施する。（学年部・進路指導部連携） 【進路アンケート：進路意識の向上70%以上】 【各学期の計画実施率：100%】</li> </ul>	B	B	<p>3年間を見通した指導計画「未来への架け橋」を策定し計画的に進めているが、模擬試験と土曜講習については、十分な参加につながるよう、学校全体での生徒への働きかけが必要である。</p> <p>LHRにおける指導は学年と連携して実施している。来年度の計画に向けて指導内容等を整理する必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査や面談を通じて得た情報を学年、学科、進路指導部等で共有し、目標達成のために必要な指導計画を立て実行する。（講習・模擬試験・検定試験・出願指導等）</li> </ul>	B		

		【進路検討会議の実施：各クラス年間2回以上】			して、その内容を校内で共有することに変更した。今後もこのタイミングが良いと思う。
健康安全 指 導	健康で安全な生活を営むための実践的能力の育成	・感染症予防について理解を深める。 ・保健委員会を活用した食育キャンペーンを実施する。(朝食を摂る習慣・食品成分を考えた食事を選択する力) 【保健日より、HPでの保健情報の配信：年10回以上】 【生活習慣・朝食アンケートによる食生活の改善】	A	A	保健便りは8号まで発行し健康管理への意識向上に努めている。新型コロナウイルス感染症については、ポスターを掲示するなど継続した注意喚起を行う中で、全教職員の協力の下、学校行事を全て安全に終えることができた。
		・「時を守り、場を清め、礼を正す」を合い言葉に、美化・掃除活動の指導を行う。 【大掃除プロジェクト：年間5回以上実施】	A		毎回掃除の重点箇所を決めて行った。これまでに5回実施したが、生徒はとても熱心に取り組んでいる。
		・授業や体育行事での事故防止を図るとともに、安全教育を行い、大きな怪我や事故を防ぐ力を身に付けさせる。 ・安全点検を学期に1度実施し、施設の改善につなげる。 【実習中の事故や怪我を発生させない。】	A		校内でケガをしたことを教員に伝えなかったり、症状の発症後しばらくしてから気づき来室する生徒がいた。また、教員間でも情報共有の徹底が十分ではなかった事例があり連携強化に努めたい。体育祭等においては、事故の未然防止を目的としミニ研修を実施した。
	教育相談・特別支援の必要な生徒への組織的な指導体制構築と指導力の向上	・校内での教育相談や特別支援教育を深めるために、スクールカウンセラー及び専門機関と連携する。 【教育相談や特別支援についての校内研修実施】	A		考査前に教育相談小会議を開き情報共有と共に個々の生徒への対応を検討。今後は必要に応じてケース会議を開く体制を整えたい。特別支援が必要な生徒には、外部の専門機関と連携し「個別の指導計画」を作成してその運用を進めている。
人権教育	教員の人権意識の向上	・教職員を対象にした研修など通じて、共生社会における高い人権感覚と人権意識を養う。【教職員研修：1回実施】	A	A	同和問題をテーマにした教職員研修を実施した。
	生徒の人権意識の向上	・SNSでの差別・命の大切さに関する人権学習を実施し、いじめを許さない雰囲気を作り、安心して通える学校作りをする。 【いじめ早期発見のためのアンケート：年20回以上実施】	A		「今週の振り返り」を通じて、いじめにつながる事象の早期対応を取ることができた。

学校運営協議会による評価	
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--